

～ ペット防災講習会 ～

ペット同行避難を考える / 現状と課題

東京都獣医師会 世田谷支部 防災委員長
川瀬獣医科病院 院長

新井 庸之

はじめに



「避難」の種類

- ◎ 自宅避難（在宅避難）
- ◎ 縁故避難
- ◎ 自主避難（ホテルなど）
- ◎ 飼育避難（ペットは自宅、人は避難所）
- ◎ 避難所避難

「同行避難」と「同伴避難」

同行避難 : 避難所内では人とペットは別々

同伴避難 : 避難所内で人とペットが同居

* 世田谷区内の避難所において現時点では
同伴避難は認められていない。

「同行避難」の誤解

- ◎ 同伴（同居）はできない
- ◎ ペットフードの備蓄はない
- ◎ ケージなどは自分で持ち込む
- ◎ 室内スペースのある避難所でも、入りきらない場合は屋外
さらに大型犬はリードなどでフェンスに係留
- ◎ ペットの世話は飼い主が行う
- ◎ 冷暖房設備はない

同行避難に向けての備えと意識

◎備蓄 （消耗品）

- ・ ペットフード：1～2週間分 食べなれたもの
処方食など入手しづらいものは1か月分
- ・ 飲料水：人用のほかにペット用にも必要 1週間分
- ・ ペットシーツ、おむつ、におわないビニール袋 など
- ・ ウエットティッシュ、ウエットタオル
- ・ トイレットペーパー、使い捨てビニール手袋 など

同行避難に向けての備えと意識

◎備蓄 （携行品）

- ・ ケージ：移動用の小型のキャリーと、居住用の大きな折り畳式のもの 2 種類
- ・ 食器：使い慣れたもの
- ・ トイレ、猫砂
- ・ タオル、クッション（ケージ内に敷く、匂いのついたもの）
- ・ リード、または避難所等で係留が必要な場合、
咬み切れないワイヤー、チェーン

同行避難に向けての備えと意識

◎備蓄 （その他）

- ・ 常備薬：心臓病薬などのように発災時でも欠かせないものは
余分にもらっておく
- ・ ペット用の靴：瓦礫などのある場所を歩かせる場合
- ・ キャリーカート：避難所までの携行品や、歩行困難な大型犬
の運搬用

同行避難に向けての備えと意識

これらの備えは

同行避難 のためだけでなく、
自宅避難 のためともなり得る

同行避難に向けての備えと意識

◎クレートトレーニング

普段からケージに閉じ込められた時もおとなしく我慢できるように、訓練しておく

◎その他しつけ

人や他の犬に吠えたり攻撃的にならないようしつけておく

同行避難に向けての備えと意識

◎ 予防

- ・ 狂犬病ワクチン（犬）：法律で定められている為
必須
- ・ 混合ワクチン：避難所の定めによっては、
他の動物への感染予防のため
必須
- ・ ノミ、ダニなど外部寄生虫の駆除

ペット同行避難の推進

提案：「飼い主の会」（仮称）の設立

「飼い主の会」とは

「発災時にその避難所にペットと同行避難して
くる可能性のある飼い主で構成される組織」

ペット同行避難の推進

「飼い主の会」の活動内容

- ◎ 避難所において、ペット同行避難に対する避難所運営
- ◎ ペット同行避難のガイドライン作成
- ◎ 避難所ルールの作成
- ◎ ペット同行避難訓練の開催
- ◎ ペット用備品の備蓄
- ◎ 平常時・発災時の情報交換

ペット同行避難の推進

「飼い主の会」設立のメリット

- ①ペット同行避難への対応を任せてしまうことで、避難所運営委員の仕事が軽減できる
- ②ペットの飼い主の防災への意識が高いため、避難訓練や、その他普段の活動にも積極的に参加
- ③発災時、ペットの受け入れを拒否し、自宅避難を勧める場合も、飼い主同士の方が説得しやすいなど

ペット同行避難の推進

「飼い主の会」 設立が難しい避難所



避難所運営委員の中にペット担当を置き、前述の内容の活動を行ってもらう

（その際、担当者はできればペットを飼っている者が理想）

桜木中学校避難所の実例

2014年 ペット同行避難のための活動開始

2016年 同行避難のガイドライン作成

「飼い主の会」設立 会員募集

ペット避難所ルール 作成開始

→その後改定を重ね現在のルールに

その後はコロナ禍に入る2019年までは様々なペット同行
避難訓練を行った

桜木中学校避難所の実例

- ◎ 避難所見学を兼ねた受付シミュレーション
- ◎ 実際に犬を連れての避難訓練
- ◎ 獣医師を招いての講演・講習
- ◎ HUGゲーム（災害時の状況を想定したシミュレーション）
- ◎ サッカーゴールを利用したテントづくり

など

桜木中学校避難所の実例

桜木中学校ペット避難所ルール
災害発生 ↓ 桜木中学校避難所立ち上げ（避難所本部設置） ↓ ペット同行避難所立ち上げ 避難所に到着した飼い主の会のメンバーが自主的にペット同行避難者受け入れ作業を開始 ① 飼い主の会の備品がまとめてある収納ケースをペット避難所（フール更衣室）に運ぶ ② 受付の準備、受付作業、貼り紙の掲示などの作業を始める ③ 一般避難者用受付とは反対側にペット同行避難受付ブースを設置 ＊机 受付用紙（ペット登録カード）筆記用具、ペット同行避難ルール（配布）を置く ④ フール更衣室入口に“飼い主以外立ち入り禁止”の貼り紙を貼る 扉に動物種別の貼り紙を貼る 男子室・“猫、小動物” / 女子室・“犬” ↓ 被災者ペット同行避難 避難所に到着後の流れ ① 避難所ペット登録カード（飼い主同行動物用）に飼い主の名前、住所・電話、ペットの種類と名前、犬の場合は狂犬病予防注射の有無を記載する ＊受け入れの原則は、飼い主がペット用ケージを持ち込み、犬については狂犬病予防注射済票。 狂犬病予防注射済票の提示が望ましい。 ② ペットをケージに入れて、更衣室の指定のスペースに置く ＊ケージを自宅に取りに戻る場合は、一時犬は外のスペースに係留 必ず家族又は友人、避難所運営委員に一時帰宅する旨を伝える。 ＊先着順のため、更衣室のスペースがいっぱいになった場合には、校庭の指定のスペースにブルーシートを張り、ペットを入れたケージを並べる
注意事項： ＊ペット用品、ドッグフード類は、体育館内の各自のスペースで自分の荷物と共に保管する（トラブル防止のため） ＊トイレや散歩の場所、汚物の置き場などを確認する ＊ケージには古タオルや古シャツなどをかけておくようにする（ペットを落ち着かせるため）
●避難所生活ルール ペットの世話は飼い主が責任を持って行うことが原則 ペットのスペースの清掃などについては、ペットの飼い主で班編成をする→受付時の登録番号順
○餌 時間、回数は各自の責任において行う
○ペットのトイレ トイレ指定場所に連れて行く（フールの水を汲み置いたバケツからペットボトルに水を移し、尿の処理に使う）

糞の始末（ビニール袋に入れる）は校庭の指定の場所に捨てる（南門横の一般避難者と同じゴミ捨て場）
○ペットの散歩 校外が可能であれば中学校周辺。校庭内は不可
○ペットスペース（更衣室）の清掃 ペットのケージ内の排泄については、飼い主が責任を持って清掃を行う 各更衣室については3人ずつ、受付リストから順に割り振り、分担を決めて清掃する…1日二回程度（飼い主の会用に箒、塵取り、雑巾、芳香剤、ハイターなどの準備あり） フールの水を汲み置いたバケツを準備する（尿処理用）
○その他 ＊一般避難者からのクレームについては（鳴き声、臭いなど）、ペットも含めすべての避難者が強いストレスを受けている状況を互いに認め合えるような話し合いの場にし、ペットのストレスについても理解を求めている。 鳴き声については、飼い主がペットのそばに居る時間を作る、ケージに覆いをかけるなど、ペットが落ち着ける環境を作る。臭いについては、こまめに更衣室の清掃をするなどの工夫をする。 ＊使役犬の扱い 盲導犬、介助犬などの使役犬については同居避難を認め別室を使用する。 （救護室にいる人がアレルギーなど発症する恐れがあるため、学校と別室を検討） ＊配給など ペット用品、フードなどの配給については、飼い主の会→避難所本部→上町まちづくりセンター→役所へ要望をあげていく。必要なものが有れば、飼い主の会として取りまとめて避難所本部へ要望を出していく。 ＊動物病院の開業、迷子などの連絡については、掲示板の貼り紙で対応する
＊避難所内でのペット死亡時について
◎ペット避難所内での事故（ペット同士、ペットと人）について 飼い主の会としては責任を負えません。各自、ペットの管理と共に周囲への十分な配慮をお願いいたします。

桜木中学校避難所の実例



桜木中学校避難所の実例



桜木中学校避難所の実例



桜木中学校避難所の実例



ペット同行避難の実行

- ①避難所運営委員の中からペット同行避難の担当者を決め、その人を中心にガイドラインを作成。

【ガイドライン】

- ・ 受け入れ対象動物
- ・ 避難所運営本部の役割
- ・ 飼い主の役割
- ・ 飼育場所
- ・ 飼育の方法・管理
- ・ ペットのための備蓄 など

ペット同行避難の実行

②同行避難ルール作成：

「飼い主の会」が設立できた場合はその主要メンバー、
そうでない場合は避難所運営委員のペット担当者により
避難所ルールを作成する。

- ・ 発災から避難所開設までの流れ
（受付方法・受付カード・ファーストミッションボックスの準備など）
- ・ 避難者到着から受け入れまでの流れ
- ・ 避難所生活のルール
→実際にペットを飼っている人にしかわからない面あり
- ・ その他

ペット同行避難の実行

③ペット同行避難訓練の開催

- ・ ペット同伴なしのシミュレーション
- ・ 実際にペットを連れての訓練

ペット同行避難の実行

④専門家を招いてのセミナー・講演会の開催

- ・ペット防災への意識の向上
- ・災害に対する備え・備蓄の啓蒙
- ・その他災害に対する知識の向上

桜木中学校避難所ペット同行避難の現状と課題

見えてきた課題

- ◎人・ペットの収容スペースの限界
- ◎夏の暑さ対策 など



訓練・シミュレーションを繰り返すことで、

「避難所はペットにとって決していい環境ではない」

ことがわかってきた

そこで浮上してきた

「在宅避難のススメ」

- ◎ ペットにとって、住み慣れた我が家が
一番ストレスなく暮らせる環境
- ◎ そのための準備・備蓄を進めることを推奨

在宅避難のススメ

避難所：避難する場所→在宅避難者への情報発信源
情報交換の場

飼い主の会：避難所で活動→被災時に助け合う
飼い主同士のつながり

東京都獣医師会 世田谷支部 防災委員会の活動

(ペット防災講習会)

獣医師会 防災委員 → 各総合支所

【講習：獣医師会】

まちセン まちセン まちセン

【講習：まちセン担当者】

町会 町会 町会（各避難所）